

活動報告書

報告者氏名: 上嶋早苗・河井晴美

所属: 三重県立特別支援学校北勢きらら学園

記録日: 2014年2月25日

【対象児(群)の情報】

・学年

小学部6年生の男児

・障害名

脳性麻痺、知的障害

・障害と困難の内容(4年生までの実態)

視覚優位であり、言葉での指示がわからず動かなかったり座り込んだりすることがある。行動はパターン化しやすく変化への対応が苦手である。コミュニケーションは受身で表出が少ない。数語の発語とコミュニケーションカードを少し使えるが、伝えられる場面や内容が限られている。予定の変更や自分の思いが通らないことがあると、パニックを起こし他傷に及ぶことがある。歩行器での移動が主であり、両手がふさがった状態ではカードの持ち運びがしにくい。



iPhone なら歩行器でも持ち運べる。

【活動目的】

・当初のねらい

昨年度から iPhone を活用しはじめ、自分から動けることが増え、欲しいもの・買いたいものを相手に伝えられるようになってきた。また、予定の変更を受け入れて、学校で落ち着いて活動できる場面が増えている。今年度は、「家庭から出て自立生活をしたい」「作業所で働き、好きな物を買いたい」という、本人・保護者の将来への願いを長期的な視点として持ちながら、家庭生活でも iPhone を活用していくことをねらいとして取り組んだ。

ねらい① 家庭からも買い物へ行き、いろいろな店で欲しいものが買える。

…歩行器歩行の本児でも、コンパクトで軽量の iPhone であれば店にも持ち運べる。食べるのが好きなので、好きな食べ物が買える買い物活動への意欲は高い。

ねらい② 家庭でも自分から表出し、落ち着いて過ごすことができる。

…視覚優位の本児にとってわかりやすい iPhone アプリを活用して、スケジュール理解や気持ちの表出を促す。

ねらい③ 学校での表出回数、場面、相手を増やす。

・実施期間

買い物: 学校から週1回(2012年6月～※昨年度から継続。)、家庭から不定期(2013年7月～)

家庭での取り組み: 一日1場面(2013年4月～)

担任以外へ伝える取り組み: 一日2場面(2013年9月～)

・実施者 上嶋早苗・河井晴美 他グループ担任

・実施者と対象児の関係 学習グループ担任教員

【活動内容と対象児(群)の変化】

・対象児(群)の事前の状況

ねらい① 買い物	ねらい② 家庭での取り組み	ねらい③ 学校での取り組み
<p>5年生の取り組み当初は、出かけても欲しいものを買うのは周りの大人で、買い物をすること自体よくわからなかった。学校近くのコンビニで週1回買い物をするようになり、iPhoneで欲しいものを伝えて購入できている。家庭からは2回の買い物経験しかない。買い物先や、一緒に行く人がいつも同じである。</p>	<p>学校では iPhone を使って次の活動を確認して動くことや、気持ちを伝えられることが増えてきたが、家庭では自分から表出することはほとんどない。母親は、本人から明確な表出がなくても気持ちが汲み取れると感じている。しかし、気持ちが不安定になり、泣いたり怒ったりすることがある。</p>	<p>表出は給食の場面が中心で食べたものをカードで伝えていた。iPhoneを使用することで給食以外にも表出の場面を広げることができ、5年生の取り組みを通して困ったことや助けてほしい場面でも iPhone で伝えられるようになってきた。しかし、担任との関わりが主であり、担任以外の相手への表出はほとんどみられない。</p>

・活動の具体的内容

<p>移動支援(ヘルパー)を利用して家から近くのコンビニへ買い物に行き、「たすくコミュニケーション」で欲しいものを伝えて購入する。</p> <p>本児が欲しいであろうものの選択肢をあらかじめアプリに入れておく。ヘルパーにもその場で選択肢の追加をしてもらえるよう依頼した。</p>	<p>「たすくスケジュール」を使用し、自分で「おやつ」の時間であることを確認し、食卓へ移動する。「たすくコミュニケーション」で、欲しいおやつを家族に伝えてもらう。</p> <p>毎日取り組むことを目標に、学校の連絡帳へ簡単な記録をしてもらった。</p>	<p>給食では「絵カードコミュニケーション」で食べたいものを伝えるときに、その日の担当教員が本児から離れ、違う教員に伝える場面を設定。</p> <p>ブランコが好きなので、押して欲しいとき「たすくコミュニケーション」で担任以外の教員に伝える場面を設定。それぞれ一日1回行った。</p>
---	--	--

・使用したアプリ



「たすくコミュニケーション」

カードと同じシステムで表出ができる。シンボルの移動、めくることが容易である。



「たすくスケジュール」

シンボルが拡大され、音声が出る。シンボルの移動も容易である。終わった活動にレ点を入れられ、わかりやすいスケジュール提示ができる。



「絵カードコミュニケーション」

シンボルを多数登録でき、非表示にすることもできる。インターネットで画像検索してすぐにシンボルを作ることができる。音声が出る。

・対象児(群)の事後の変化

<p>休日にヘルパーと買い物に行き、学校からの買い物では買わないものも購入した。近くのコンビニだけでなく、バスを利用してファストフード店に行って購入することもできた。母は食べやすさを考えてカップアイスをいつも購入していたが、本児は棒アイスを好んで購入し、笑顔で食べた。</p>	<p>おやつを出されるのを待つだけだった本児が、ほぼ毎日、自分から欲しいおやつを母に伝えるようになった。本児の要求したおやつがなかったときに、「じゃあ、こっちは？」と別のものを母が提示すると、そちらが欲しいということを表出するというやりとりもみられた。</p>	<p>取り組み当初は身体的援助が必要で、表出にも時間がかかっていた。担任以外にも伝えていいことがわかってくると、担任が離れるとすぐに近くにいる教員に表出したり、担任が近くにいなくても特定の教員に何度も表出したりする姿がみられるようになった。</p>
--	--	--

お母さんに伝えたら…



お菓子をもらえたよ！



給食での表出

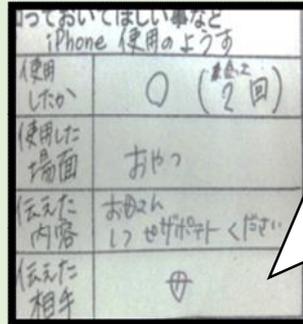


【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

お金の支払い、おつりや商品の受け取りもできるようになり、買い物にいく日は自分から財布を取り出して待つようになった(図1)。売り場の商品をよく見てからレジへ行くなど、買い物の仕方が変化した。

iPhoneを使用することで、より明確に思いを伝えられるようになり、「欲しいものは本人が決める」と母の気持ちも変化した。



家での表出を記録してもらうことで、家庭への支援もしやすく、毎日の取り組みを意識してもらえ

伝える場面や相手を広げる取り組みを通して「伝えたい、伝えよう」という気持ちが高まった。伝わらないと自分でiPhoneのボリュームを上げる、スピーカーにつなげる、伝えたい内容のシンボルがないと何度も探す等の姿がみられた。困った場面で「いいません」「休憩したい」と自ら伝えることや、言葉での表出も増えている。(図2、図3)

・エビデンス(具体的数値など)・・・iPhoneの活用(5年生～)で変化したこと

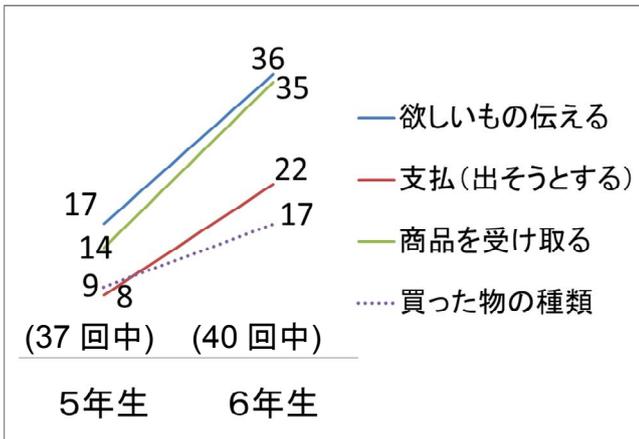


図1 【買い物】一人でできた回数の変化(回)

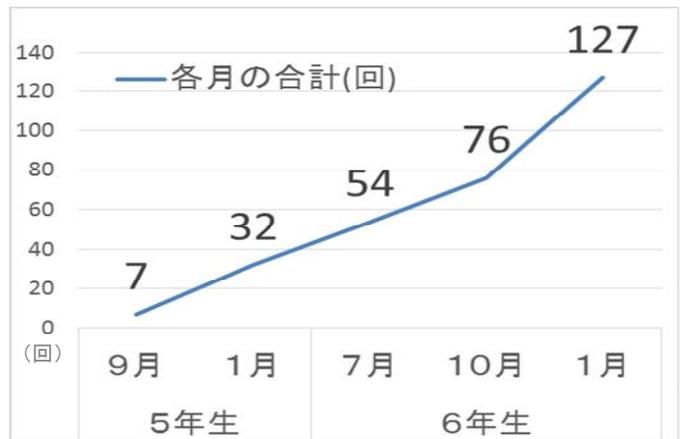


図2 困った場面での表出回数の変化

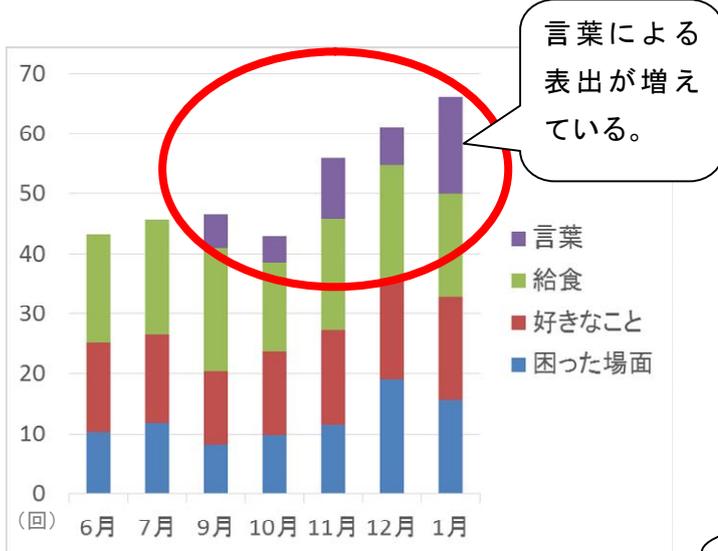


図3 一日の表出回数(各月の平均)

	カード時	iPhone時
場面	給食、ブランコ	家、授業、買い物、休憩時間など
回数(一日)	10～15回	40～50回程度
相手	担任	教員、親、店員など
文構成	3語文	4語文 (属性語も含む)

本児にとってわかりやすく操作しやすいiPhoneを使用したことで、表出の回数が増加。場面や相手、内容にも広がりが見られた。